

“

農業公社施工と事業参加者による委託施工の施工条件の違いについて

”

事業参加者による委託施工に必要な留意点

公益財団法人北海道農業公社

草地難防除雑草駆除対策事業のメリット

- ▶ 1 除草剤が1年に2度、使用出来る
- ▶ 2 他種目の輪作による除草が可能である
- ▶ 3 最大で4年間の継続した除草が可能である

- ▶ * 多年生イネ科雑草の駆除は更新時が唯一の機会であり、確実に駆除を行う事で収量と質のアップにつなげる。



公社施工の優位性

草地整備に特化した機械力

- 1 丘引きプラウ施工により、プラウ溝に足を入れない為、踏圧による耕盤層を形成しづらい
- 2 草地専用プラウ施工により、確実な反転耕起が可能で、雑草の種子を鋤き込む事で、発芽を抑制する
- 3 クローラを主体とすることで走行溝が付きにくく、圃場の起伏を軽減する
- 4 クローラ施工により、踏圧を一定に出来るので収穫時の走破性が上がる
- 5 ホイルトラクタでは困難な傾斜地や軟性土、若しくは荒地に対応出来る



事業参加者による委託施工の優位性 施工時期の自由度

- ▶ 1 除草剤を用いる為タイミングが重要になるが、自身での施工なので適期を狙いやすい
- ▶ 2 前後の予定を組みやすく、ベストな天候と土壌水分での施工が可能
- ▶ 3 事業の特性上、輪作体系に取り込みやすく、デントコーンを交えた営農を無理なく行える

除草剤を用いた理想のスケジュール

前処理

- 草丈30cm程度
- 5月後半～6月前半

床作り

- 前処理後3～10日程度から 次の雑草の発芽前までに施工する
- 6月中旬～7月前半

後処理

- 土質・降水によるが雑草がはえそろうのに約40日程度
- 8月中

同日播種

- 後処理後、水分が乾けば播種可能
- 8月中



更新時の注意点

- 1 理想は1番草を諦めて更新を行うと無理なく綺麗な草地を作る事が出来る
- 2 8月中の播種であれば越冬に関して問題無い
- 3 床作りから後処理までの時間が短いと、地下茎型雑草の発芽が間に合わず、残りやすい
- 4 翌年度の1番草収穫後にギシギシが繁茂する事があるので、2年目以降は選択制除草剤を使用する

事業参加者による委託施工のまとめ

- ▶ 事業参加者による委託施工では耕起～鎮圧の部分での機械力不足が懸念されるが難防除雑草駆除に係る除草剤散布や、輪作による除草は本人の経営体系に組み込める為、公社で行うより有利に働くことがある
- ▶ 圃場条件を把握し、自己更新で上手く出来る圃場のみを的確なタイミングで施工する事がより良い草地を作る条件であり、基本だと思っています